

◆患者さんへ ～高齢者の聴覚障害に関する後ろ向き観察研究に関する臨床データ利用のお願い～

難聴は高齢者に最も多い感覚障害の一つで、高齢化社会の現代では、その頻度が高くなってきています。難聴によるコミュニケーション障害は、生活の質の維持に著しい低下をもたらす、問題となります。当科では、難聴により日常生活に支障を来している高齢患者様の診療を行い、精密聴覚検査による評価を行っていますが、その人数は年々増加しています。

こういった状況の中で、当科を受診した高齢患者様の聴覚障害について詳細に検討して、様々な臨床データ（性別、年齢、合併症、既往歴、現病歴、精密聴覚検査結果など）を集めて研究をすることで、今後のより良い難聴治療に役立てたいと考えております。また得られた結果については、有益なデータとして、学術活動の一環として、学会報告や学術論文に投稿、公表をしていきます。

これらの臨床データ、情報については、通常に診療を受けていただく際に記録される診療データであり、特別に患者さんに負担していただき、収集されるものではありません。患者さんにはこうした研究に臨床データを利用する目的、趣旨をご理解いただきますようによりしくお願い申し上げます。これらの臨床研究に関してさらに説明を希望される患者さんやご家族様、また臨床データの利用を希望されない患者さんやご家族様がいらっしゃるようでしたら、耳鼻咽喉科：高橋正時；03-3964-1141(代表)までお申し出ください。

◆「高齢者の聴覚障害に関する後ろ向き観察研究」の臨床研究参加に関するお願い

【はじめに】

難聴は高齢者に最も多い感覚障害の一つで、高齢化社会の現代では、その頻度は高く、65歳以上の約40%、85歳以上の約80%が罹患しているとされています。難聴によるコミュニケーション障害は、高齢患者の生活の質の著しい低下をもたらしますので、その病態解明と対策が、大きな課題となっています。高齢者の聴覚障害について詳細に検討して、今後のより良い難聴治療のために、様々な検査データを解析することが求められています。

【研究内容】

本研究では、65歳以上の患者の経過を後ろ向きに観察して、様々な精密聴覚検査（純音聴力検査、語音聴力検査など）の結果を検討し、高齢者の聴力経過について解析を行い、今後の治療介入のために情報を得ることを目標にしています。

【対象患者】

2014年1月1日～2016年12月31日までの期間に東京都健康長寿医療センター（当院）にて精密聴覚検査（純音聴力検査、語音聴力検査など）を行った、65歳以上の症例を対象とします。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の過程において、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない患者さん、ご家族さまは以下連絡先までご連絡ください。

【医学上の貢献】

本研究の結果により、高齢者の聴覚障害の現状を把握するとともに、治療成績の改善に向けた大切な情報を収集、解析します。

【研究機関】

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター耳鼻咽喉科

研究責任者：高橋正時（医長）

分担研究者：西尾綾子

なお本研究計画書に関しては当院臨床試験審査委員会にて承認を受けております（当院受付番号：××××××××）。

連絡先：

〒173-0015

東京都板橋区栄町 35-2

東京都健康長寿医療センター 耳鼻咽喉科

Tel:03-3964-1141(代表)

FAX:03-3964-1982